

## 5講演で先進的な研究発表

### 多様なポスター発表も

#### 岐阜県森林研究所

岐阜県森林研究所が、

（岐阜県美濃市、山崎靖所長）は7月11日、関市のわかくさ・プラザで「2019年度研究・成果発表会」を開き、約130人が参加した。5講演（研究発表）のほか、会場内に掲示したポスター発表で同研究所と長野県林業総合センターによる13の研究成果を紹介し

た。

研究発表では、富田守泰同研究所主任専門研究員は原木強度グレース・ディングの評価手法について解説。渡邊仁志専門研究員は松コナテナ苗による下刈り期間短縮の研究成果を説明し、生長が早い同苗による下刈り省略化の事例を報告した。また、片桐奈々主任

研究員は県内の桧根株腐朽病被害の発生状況を、大橋章博森林環境部長は青色光によるシイタケ害虫の防除方法を発表。臼田寿生専門

研究員は昨年7月の豪雨で県内に発生した山地災害の特徴について述べ、斜面崩壊と林況（林齢）の関係などを解説した。



約130人が参加した

ポスター発表では、少花粉県産松精英樹の培養苗木育成や早生樹コウヨウザンの初期生長調査、県内木造住宅での横架材の利用実態、成熟ナラ林からの用材生産、カラ松・杉大径材の製材木取りなど、多様な研究を紹介した。

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限：令和2年8月28日

この記事は日刊木材新聞社の許可を得て使用しています。